

「新型コロナウイルス ワクチン接種に関する意識調査」

**接種への期待と不安が入り混じるシニア 64.5%が不安 一方、82.0%が効果を期待  
接種後にやりたいこと No.1 は「気兼ねなくおしゃべり」  
旅行や外出だけでなく、人とのコミュニケーションを強く求める傾向が明らかに**

女性誌部数 No.1 (※1) の雑誌「ハルメク」を発行する株式会社ハルメク（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：宮澤孝夫）生きかた上手研究所は、50～85歳の女性471名を対象に「新型コロナウイルス ワクチン接種に関する意識調査」をWEBアンケートにて実施いたしました。

(※1) 日本ABC協会発行社レポート37.3万部(2020年7月～12月)

【 調査サマリ 】

■シニア女性の64.5%がワクチン接種に不安を感じている。一方で82.0%が期待、92.1%が接種に積極的

⇒ワクチンに不安を感じている人は64.5%。その一方、ワクチンによる感染収束に期待する人は82.0%にのぼる。

⇒「既に接種した」「なるべく早く接種したい」「様子を見てから・効果や副反応が検証できてから接種したい」の合計は92.1%となり、9割以上が接種に積極的。

⇒不安の根源は、「副反応」と「効果の持続性」。

■長期化するコロナ禍の中でも、人とのつながりを希求

⇒現在心がけていることは、「人と会わないようにする」が昨年比で11.5ポイント上昇。「友達・同僚との連絡を電話やネットで行う」が23.5ポイント上昇。

⇒人と会うことの大切さを再認識する、新しいつながりを築くなど人間関係を見直す姿も見られる。

■ワクチンを接種したら、「気兼ねなくおしゃべりしたい」「離れている家族と会いたい」「遠出をしたい」「外で美味しい食事をしたい」

⇒ワクチン接種したらしたいことでは、「友だちと気兼ねなくおしゃべりしたい」が59.4%でトップ。上記の項目はいずれも40%を超え、「マスクを外したい」の37.2%を上回る。

⇒さらに、コロナ収束後に再開したいのは、「旅行」、「友だちとおしゃべり」。いずれも昨年よりも意向が高まっており、長期化する制約生活でニーズが増している。

⇒一方で、コロナが収束しても、「うがい・手洗い」「消毒・除菌」「免疫力を高める食材をとる」など、身についた生活習慣は続けようという意識も高い。

【調査背景】

女性誌部数 No.1 の「ハルメク」は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っています。日本での新型コロナウイルス累計感染者数は79.7万となりました(6/30時点)。日本の総人口の0.6%が罹患したということになります。65歳以上の高齢者へのワクチン接種が日本各地で広がり、「1回目の接種を終えた人の割合」は56%を超えました(6月30日時点)。高齢者以外の企業や大学などでの職域接種も始まりました。長引くコロナ禍での生活。シニア女性のココロとカラダはこの1年でどう変化したのでしょうか。どのように向き合っているのでしょうか。これらを把握すべく、「新型コロナウイルス ワクチン接種に関する意識調査」を実施しました。

※調査主体の「(株)ハルメクホールディングス 生きかた上手研究所」所長への取材、コメント提供も可能です。

【調査概要】

調査の方法：WEBアンケート

調査の対象：50～85歳の女性

有効回答数：471名

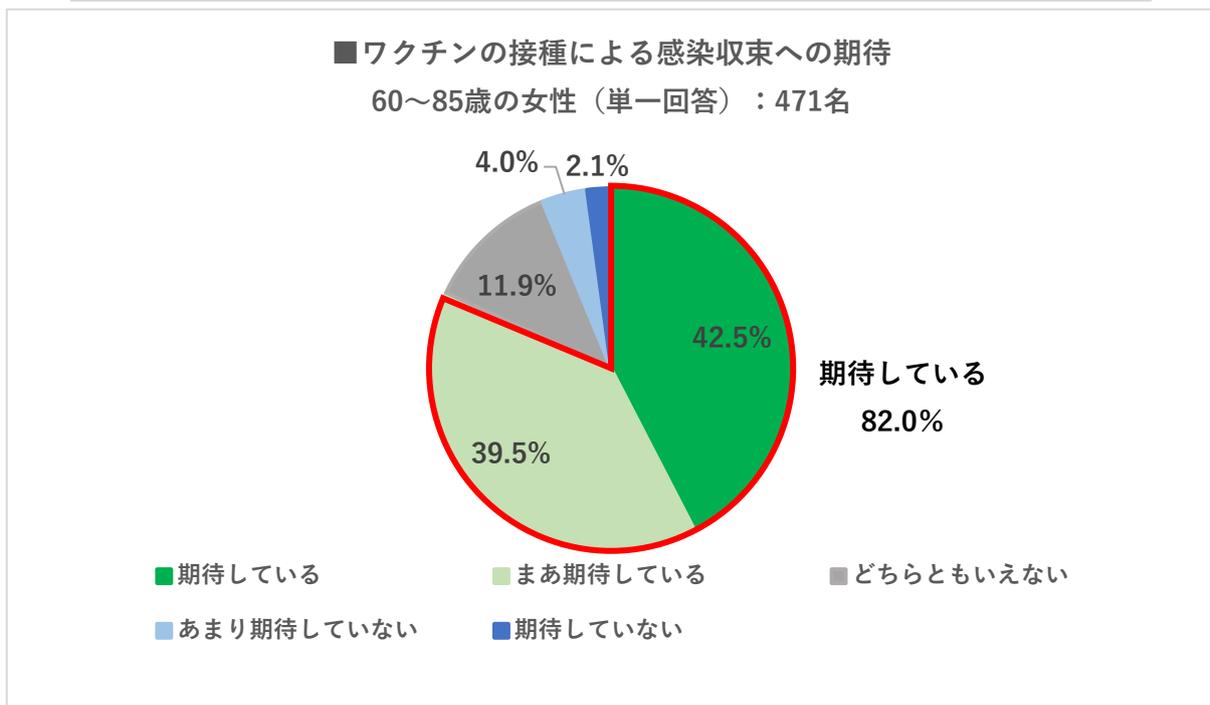
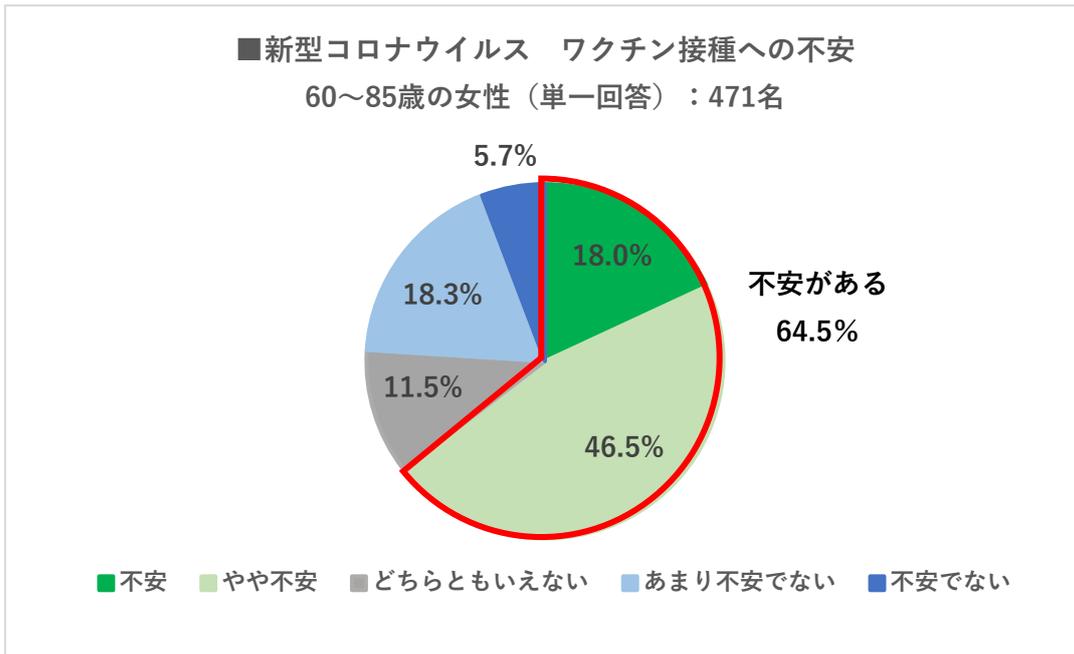
調査実施日：2021年6月4日～6月7日 ※一部の地域で緊急事態宣言下中に実施

調査主体：(株)ハルメクホールディングス 生きかた上手研究所

※本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

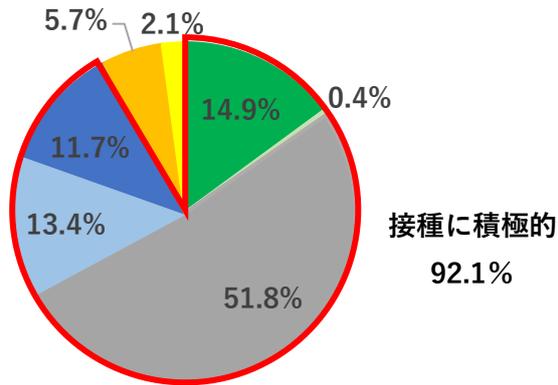
**シニア女性の64.5%がワクチン接種に不安を感じている  
一方で82.0%が期待、92.1%が接種に積極的**

- ・ワクチンに不安を感じている人は64.5%。その一方、ワクチンによる感染収束に期待する人は82.0%にのぼり、不安と期待が入り混じる。
- ・既に接種した人は14.9%（6月7日時点）。「なるべく早く接種したい」が52.2%、「様子を見てから・効果や副反応が検証できてから接種したい」が25.1%となり、9割以上が接種に積極的。
- ・ワクチンへの不安は「副反応が心配」が最も高く、次いで「いつまで効果が続くのか分からない」「将来的な身体への影響が分からない」など長期的な効果や影響を心配している。



### ■新型コロナウイルス ワクチンの接種意向

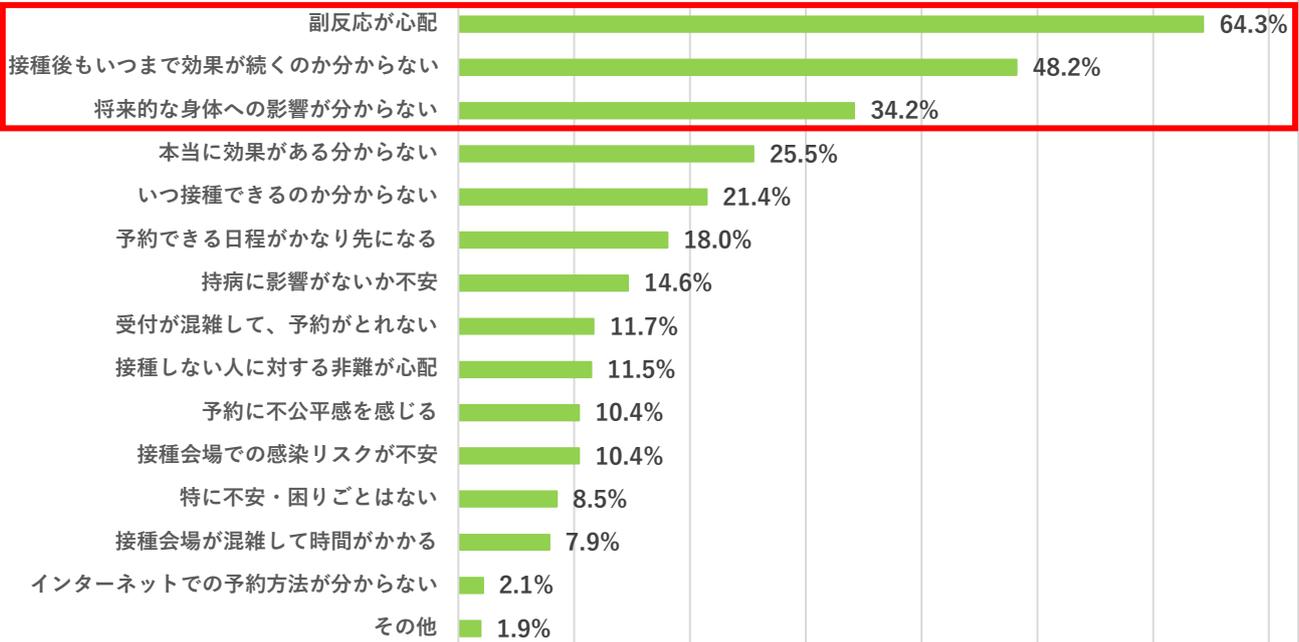
60～85歳の女性（単一回答）：471名



- 既に接種した
- 海外に行っても、なるべく早く接種したい
- 日本で予約できるようになったら、なるべく早く接種したい
- 周りの人の様子を見てから接種したい
- 効果や副反応が検証できてから接種したい
- 接種したくない・接種するつもりはない
- 分からない・決めていない

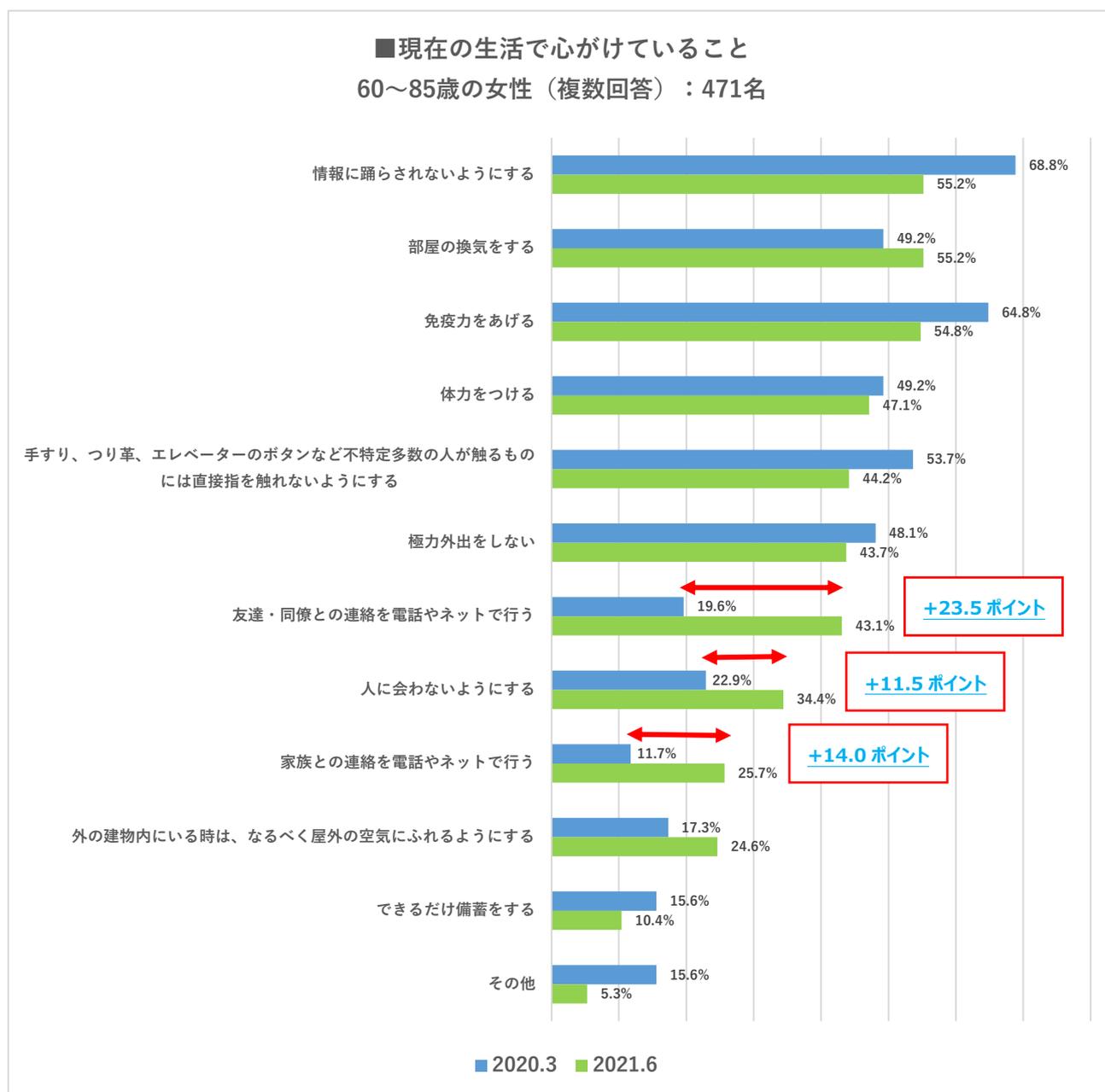
### ■ワクチン接種についての不安や困りごと

60～85歳の女性（複数回答）：471名



## 長期化するコロナ禍の中でも、人とのつながりを希求

- ・現在心がけていることは、「情報に踊らされないようにする」、「部屋の換気をする」などの割合が高く、昨年と傾向は変わっていない。しかし、「人と会わないようにする」が昨年比で 11.5 ポイント上昇、「友達・同僚との連絡を電話やネットで行う」が 23.5 ポイント上昇、「家族との連絡を電話やネットで行う」が 14.0 ポイント上昇し、人とのリアルな接触が減少している。
- ・人との接触が制限されたことで、人と会うことの大切さを再認識したり、人間関係の煩わしさから解放される一方で孤独感を感じたり、新しいつながりを築いたりするなど人間関係を見直す姿も見られる。



注1：2020年調査の対象者は、50～85歳女性520名である。

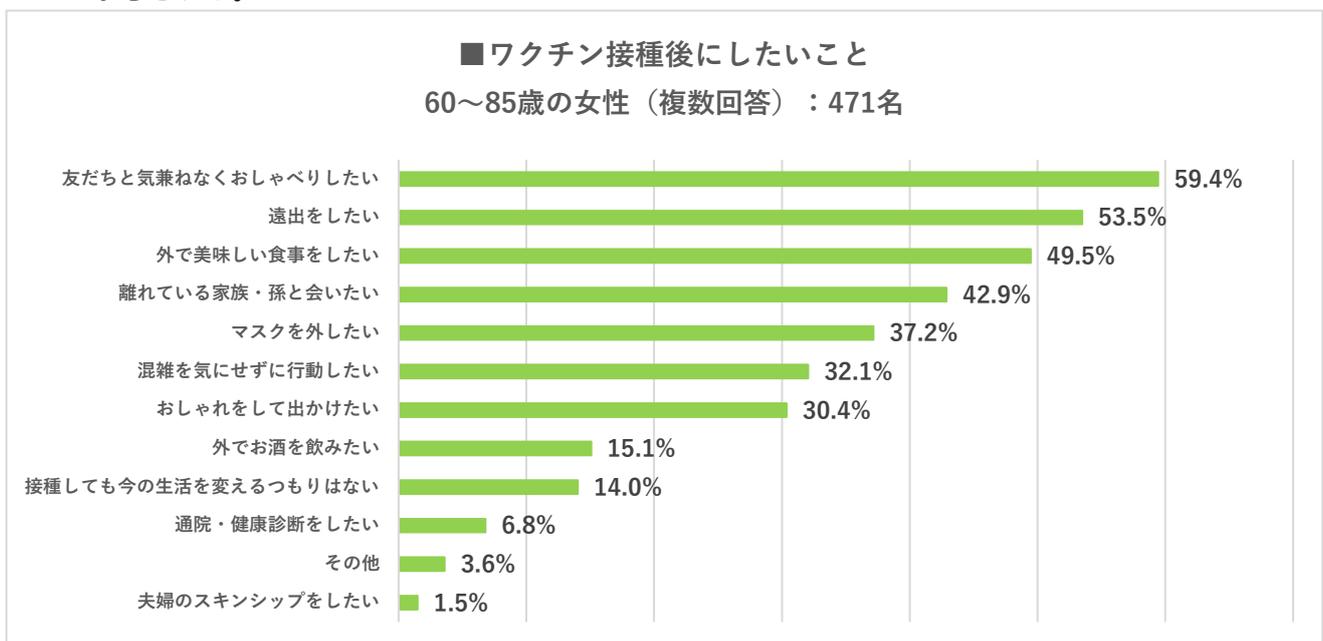
## ■コロナ禍でのコミュニケーションの変化（抜粋）

60～85歳の女性（自由記述）：471名

概要	記述内容の一例
人と会うことの大切さの再認識	・遠方に住んでいる子供達や孫に会えないことが寂しい事だとしみじみ思う。当たり前のように一年に一度は会いに行っていた事が出来なくなって普通の生活の大切さを感じています。(68歳、埼玉県) ・断りづらくて無理をして作っていた会話の時間はなくなったが、会えなくなってそのたわいないおしゃべりが大事だったと気づかされた。(61歳、東京都)
煩わしさからの解放と孤独感	・コロナに関する認識の違いから、親しい友人とのコミュニケーションが難しくなり孤独感が増した。一方で、気を使った近所づきあいや親戚づきあいがなくなり気持ちが軽くなったりした。(65歳、岐阜県)
人とのつながりの新たなカタチ	・これまで仕事に追われて思い出すこともなく疎遠になっていた友人に連絡を取った。(72歳、東京都) ・離れて暮らす三人の子供家族とは行き来することができない反面、お互いを労わる気持ちは以前より大きくなった。(58歳、鹿児島県) ・体調不良があると外出できず、zoom等の人と繋がる手段があることに感謝しています。(65歳、京都府)
収束後の楽しみに対する期待感	・友達や子供にもたまにしか会えないけれど、また会えた時に嬉しさを感じるのかなと思う。(59歳、大阪府) ・ワクチン接種率がアップして国内外で集団免疫が獲得出来れば、いずれは娘との海外旅行も再開出来るので、今からその日が来る事を楽しみに待っている。(62歳、東京都)

### ワクチンを接種したら、「気兼ねなくおしゃべりしたい」「離れている家族と会いたい」「遠出をしたい」「外で美味しい食事をしたい」

- ・ワクチン接種したらしたいことでは、「友だちと気兼ねなくおしゃべりしたい」が59.4%でトップ。「遠出をしたい」「外で美味しい食事をしたい」「離れている家族・孫と会いたい」も40%を超え、「マスクを外したい」の37.2%を上回る。
- ・コロナ収束後に再開したいのは、「旅行」と「友だちとのおしゃべり」。いずれも昨年よりも意向が高まっており、長期化する制約生活でニーズが増している。「おしゃべり」も昨年度比で4.3ポイント上昇し、単に出かけたいという気持ちだけでなく、前向きな気持ちを高めたいという意識が見られる。
- ・一方で、コロナが収束しても、「うがい・手洗い」「消毒・除菌」「免疫力を高める食材をとる」「マスクの装着」などは続けたい意向が高い。コロナ禍で身についた生活様式や健康習慣が定着していくことが予想される。



■新型コロナウイルスが収束したら再開したいこと  
60～85歳の女性（複数回答）：471名

		2020年7月	2021年6月
1位	宿泊を伴う国内旅行	74.9%	75.8%
2位	友達とおしゃべり	65.0%	71.3%
3位	外食	58.7%	62.8%
4位	映画館や美術館に行く	59.8%	62.0%
5位	日帰り国内旅行	50.7%	58.6%
6位	海外旅行	39.1%	43.9%
7位	ライブ、舞台などのスポーツ・エンタメ （ライブ、舞台、ファンミーティングなど）の観戦・応援	45.2%	42.7%
8位	デパートでの買い物	33.6%	37.8%
9位	大勢との会合	21.8%	28.5%
10位	おしゃれ	23.7%	28.0%

注1：2020年調査の対象者は、50～85歳女性363名である。

注2：2020年調査との差では、2020年から増加した項目を赤色、減少した項目を青色にした。

■新型コロナウイルス終息後も継続したいこと  
60～85歳の女性（複数回答）：471名

		2020年7月	2021年6月
1位	うがい、手洗い	75.2%	73.2%
2位	消毒、除菌	46.6%	55.4%
3位	断捨離	31.1%	38.2%
4位	免疫力を高めるといわれる食材を摂る（発酵食品など）	33.3%	35.5%
5位	庭いじり、ガーデニング、家庭菜園	23.7%	34.0%
6位	自宅での運動・体操	33.6%	30.4%
7位	マスクの装着	25.1%	28.0%
8位	キャッシュレス払い	30.0%	27.0%
9位	手作り・ハンドメイド（手芸、編物、洋裁など）	20.9%	25.9%
10位	インターネット通販 ※注2	—	25.5%

注1：2020年調査の対象者は、50～85歳女性363名である。

注2：2021年調査から取得している項目。

注3：2020年調査との差では、2020年から増加した項目を赤色、減少した項目を青色にした。

## 【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江 (うめづ ゆきえ)

2016年3月から現職。主に年間約900人の50歳以上のシニア女性を対象にインタビューや取材、ワークショップを実施



### 人とのつながることへの渴望が増している

『友達と会わなくなった分、自宅でゆったりした一人の時間を楽しむようになった。自分が本当に好きなものは何かとじっくりと考えるようになった。人の言葉に惑わされずに、自分がやりたいことと見たいことを優先するようになった。・・・人付き合いのストレスがなくラクな反面、外の刺激があつてこそ楽しかった日々も懐かしく、やはり誰かに会いたいと思ってくる。家族以外の人からの刺激が必要だと最後には感じている』

これは、神奈川県在住の70歳女性の自由記述。長期戦となっているコロナ禍の時々で変わる気持ちをストレートに表現しています。他にも、コミュニケーション不足に対する不安や人に会える希望・期待など、紹介しきれないほど、人とのつながることへの大切さに関するコメントが多くみられました。

「全国の65歳以上の1回目のワクチン接種が5割超」というNewsを聞いてからは、長かった夜がいよいよ明けて、少し薄日が射した感覚があります。この夜が明ける感覚を反映しているかのように、60～85歳女性の6割が「ワクチンを接種したら、友達と気兼ねなくおしゃべりしたい」と答えています。人とのつながることへの渴望が増しているわけです。コロナが収まり、夜が明ければ、この世代のつながり消費は活気づくに違いありません。

## ■女性誌部数 No.1! 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

1996年に50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「いきいき」として創刊。20周年を迎えた2016年5月号から、誌名を「ハルメク」にリニューアルしました。

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。

2018年には公式WEBサイト「ハルメクWEB」もオープン。健康で美しく、アクティブなセカンドライフを応援するコンテンツを毎日発信しています。

### 誌面情報

ハルメク7月号(6月10日発売)は、「心も暮らしもラクになる『気にしない』新習慣」の特集です。その他にも、「住まい、洗濯物、体臭・・・夏のニオイ対策 新常識」や「脳卒中、心筋梗塞にならない「血流力」を高める最新ケア」などもご紹介しています。

